

キャラクター名 アナスタシア=シードロヴァ=リフォロヴァ プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー	ワークス	UGN支部長D	カヴァー	UGN-N市支部長
	ブラム=ストーカー		年齢	20?	性別
オプション					
覚醒	死	衝動	吸血	初期侵食率	38%
出自	姉妹	経験	古強者	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	10
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	10
精神	2	0	0			2	戦闘移動	15
社会	0	1	0			1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC			交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃	射撃	4r	0	3		愛槍以外は特に頓着していない。
通常攻撃	射撃	8r	0	3		C値8、侵蝕4
ほらC上げなさいな	射撃	8r	0	3		C値8、侵蝕6。命中対象の次判定D+1
ちょっと本気出さないとね	射撃	21r	0	3		C値7、侵蝕8、HP-1。封印の呪適用なら侵蝕+2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
守護天使	P	N		
篠宮美鈴	P 尊敬	N 劣等感		
ありす	P 連帯感	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	6	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
CR:B=S	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-SL								
紅の王	2	-	常時	至近	自身	自動	ピュア	
効果: HPコストをSL数値ぶん踏み倒す								
封印の呪	3	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 命中対象の次判定C値+1								
滅びの一矢	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 射撃判定D+[SL+1]個。HP-2								
始祖の血統	5	4	メジャー	-	-	-	100↑	
効果: 判定 D+[SL×2]個。HP-3								
血の彫像	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果: 血液で望む形の像を造り出す								
かしく歯車	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 精密作業もできちゃうぞ								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「…は？え、わ、私が!？」

突然支部長からの退任を言い出した美鈴さん。それよりも、後釜に指名されたのが自分だったことに驚いた。てっきり先輩が垣根になると思ってた。上に立つ者として、今までの戦い方はよろしくないと言われてしまった。いつも最前線で無茶してたのだから当然か。というわけで、美鈴さんの退任まで遠距離での戦法を叩き込まれた。以前の教導よりもひどくしごかれたが、これが最後の彼女との時間だと思えば寂しくてたまらなかった。

「上出来だ。やっぱりやればできるじゃないか」

彼女の声を、もっともっと聴いていたかった。

滞りなく、支部長に就任した。みんな納得してくれたのは、ひとえに美鈴さんの人徳だろう。私なぞにそんなものはない。前線から下がり、いつしか『凶槍』という物騒な渾名は剥がれた。…かわりに『黒血公女』(ブラック・ノウブル)なんてコードがついてしまったが、『吸血者』より酷いのでは、と何度も呪った。支部長になっても、私のあり方は変わらない。姉さまを守り、ありすを守り、この街を守る。そのやり方が、私が出るか出ないかになる。それだけだ。後ろから、皆を支援する。戦場を俯瞰し、戦局を判断する。私の出る幕を、そもそも作らない。公女は玉座でぶんぞり返っているのがお似合いだ。

だが、もし。私が立ち上がらなければならぬのなら。